

表紙

ご挨拶



本日ここに第10回東京稻門グリークラブ定期演奏会が開催されますことを、早稲田大学を代表して心からお慶び申し上げます。

世の中が長くコロナ禍に悩まされる中、合唱にはとりわけ強く厳しい逆風が吹き荒れていますが、昨年あたりから漸く以前に近い形での演奏会が開催できるようになり、本当にめでとうございます。

東京稻門グリークラブは、本学の文化系サークルの中でも傑出した存在である早稲田大学グリークラブのOBのうち、首都圏のメンバーを中心に構成された男声合唱団です。今回は10回目の開催ということで節目を迎えているとのことです。どうか心ゆくまでお楽しみください。

最後になりましたが、演奏会実現のために並々ならぬご尽力をいただきましたすべての皆様に心からの感謝の意を表します。併せて東京稻門グリークラブのますますのご発展をお祈りして、私からのご挨拶とさせていただきます。

早稲田大学総長
田中 愛治

本日はご多用の中、私たちの第10回定期演奏会にご来場賜り心より御礼申し上げます。

東京稻門グリークラブは関東在住の早稲田大学グリークラブOBが集う常設の音楽団体として2001年に発足致しました。2004年に第1回を開いて以来隔年に定期演奏会を開催、また、特別演奏会や海外演奏旅行など活発に活動して参りました。

しかし近年のコロナの流行により合唱活動は大きな制約を受け、さらにはこれまでの練習会場が利用できなくなるなど思うような活動ができなくなりました。個々人の諸事情による練習参加人数の減少も避けられませんでした。前回2021年の第9回定演はコロナ禍の為中止も検討しました・・しかし合唱の灯を消してはならないとの決意から開催し多くのお客様が集まつてくださいました。

本日は私たちにとってひとつの節目となる第10回定期演奏会です。かつてのような大人数の合唱団ではなくなりましたが、団員一人一人がこれから10年・20年も歌い続けたいという強い気持ちを皆様にお届けたく「男の一生」というテーマで歌います。歌と巡り会った初心に帰るべくフレーベル少年合唱団の子供達の手も借りました。

はとっても気持ちはいつまでも「青春真っただ中」そして「荒野を目指し」ています。「大きな声を出すより響きと言葉（歌詞）を大切に」するように取り組んできました。

そんなオトコ達の歌声、どうぞ最後までごゆっくりお楽しみください。

東京稻門グリークラブ幹事長
溝田 俊二



Program

男の一生

指揮：佐藤 拓 ピアノ：佐藤 美佳

特別出演：フレーベル少年合唱団員

Stage1 少年時代

男声合唱曲集「子供の詩」

きまっているのに

作詩：山本みきこ（二年）他

作曲：南 安雄

おかねもちのおきゃくさん

おかあちゃんのえんそく

うるせ

せんせい

五じゅうまる

じ

白いもの

二千年後

空

お父ちゃんのくせ

Stage2 青年期 地上の祈り～宗教音楽の数々～

De profundis（深い淵から）

詩篇第130

作曲：Leevi Madetoja

As the Deer

詩篇第42

作曲：Martin Nystrom／編曲：佐藤拓

For the beauty of the earth

作詩：F.S.Pierpoint／作曲：John Rutter

Stage3 壮年期

男声合唱曲集「わきめもふらず。ジグザグに。」

作詩：及川均

1. わきめもふらず。ジグザグに。

作曲：信長貴富

2. 夜の機関車

3. マカハニニヤハラミッダ

4. 日常茶飯的

< 休憩 >

Stage4 そして今 「まだまだ死なんぞ」

酒頌

作詩：W.B. イエーツ／訳詩：林望／作曲：上田真樹

舟唄～兄弟船

編曲：TANAKA Hiroshi

海、その愛

作詞：岩谷時子／編曲：源田俊一郎／作曲：弾厚作

吹雪の街を

作詩：伊藤整／作曲：多田武彦

糸

作詞・作曲：中島みゆき／編曲：源田俊一郎

しあわせよカタツムリにのって

作詩：やなせたかし／作曲：信長貴富

THE IMPOSSIBLE DREAM（見果てぬ夢）

作詞：JOE DARION／訳詞：岩谷時子／作曲：NITCH LEIGH

Stage 1 少年時代

子供の詩

作詩 山本みきこ（二年）他／作曲 南 安雄

昭和30年代に少年期を過ごし、大学では男声合唱漬けの生活を送りつつ五木寛之に憧れ、社会に出て結婚してからは家族や社会のためガムシャラに働き……、退職した今も「荒野をめざす、かつてのオトコ」のひとりです。小学校に奉職しましたので人生の大半を子供心と向き合ってきたわけですが、時代の移り変わりとともに子供達も変わってきました。
しかし、時折見せるその純真な心の動きには昔も今も驚かされます……

この曲を作曲した南安雄（1931-2012）は児童合唱曲の作曲でよく知られていますが、長年NHKの専属編曲家をしていましたこともあり民放も含めたテレビ番組のテーマ曲や校歌など広いジャンルでも活動していました。この曲の男声合唱曲集としては昭和46年（1971年）に出版されましたのが今は絶版に。今日はそれを復刻しての演奏です。昭和30年代の子供達の詩が題材、その時代を想像してお楽しみください。

時代とともにPTAも変わってきましたが夫婦お名前で呼びあう方が多くなりましたね。昔はそんなのは珍しく、明治生まれの私の父は見合いだし結婚前から一回も母を名前で呼んだことは無かったのでは（笑）。おっと私ももっと妻の名前を呼ぶようにしなくては…。【きまっているのに】

小学生の頃によくテレビが普及し始め、それとともにNHKで話される言葉が丁寧語として崇められたよう…。いつでもセレブの気分になれたのかなあ。今は訛りや方言が聴かれなくなつてなんか寂しいですね。“ふるさとの訛りかし停車場の…”。【おかねもちのおきゃくさん】

あの頃は日本中が貧しかった。でも家族の心は今より豊かだったのではないか。だからこんな詩が生まれるのですね。親を思う心遣いにこちらも温かくなります。【おかあちゃんのえんそく】

テレビといえば一家に1台しかない！茶の間にあり、家族みんなで一緒に見ざるをえませんでした。だからチャンネル争いが大変だったですねえ（笑）。さらに子供は＜夜何時まで＞と見る時間が決められていて必死だった。でも当時の大人はどうしてみんなに政治に関心があったのかなあ、選挙や内閣改造ともなると長い時間中継をしていましたね。子供達は見たい番組が見られず悲しかった。【うるせ】

学校では体育の時間が楽しみでした、でもこんなこともあったんですねえ。相手が低学年だったからおなご（女）先生も油断したかな？当時は下着も種類は少なかったし。でも私はこんな思い出は全く無し、残念！【せんせい】

反対にテストには困った、悪い点数で親に叱られる。そしてクラスには必ず出来の良い女の子がいて…彼女はおかあさんを喜ばそと一生懸命だったんですね、家の経済も心配するとは…。やさしい心根が伝わってきます。【五じゅうまる】

当時駅前などでは傷痍軍人の姿もよく見かけました。戦争は嫌ですね、絶対反対！一方、こんな人生塞翁が馬もあったようで。【じ】

そうそう病院も怖かった。注射されるし、医師も看護婦も皆白い服でもの凄く権威的でもあったし。私は東京・渋谷区広尾の日赤病院によく連れて行かされました。その建物は明治村に帝国ホテルとともに保存展示されています。明治村には2回ほど行きましたが今でも入りたくないです（笑）。【白いもの】

20年ほど前に21世紀が始まると大騒ぎしました。そこから遡って弥生時代後期が西暦元年とか。今日からそんなに長い年数を経た先はどうなっているのか…大人には思いつかない発想ですね、羨ましい。【二千年後】

“山のあなたの空遠く「幸い」住む…”ほかにいったい何があるのか、私も気になります。【空】

昭和の頃のお父さんって結構自由に振る舞っていましたね、娘に嫌われていると気づかないで。【お父ちゃんのくせ】

皆様の子供の頃はいかがでしたか？

（文 江澤孝政）

きまっているのに

山本みきこ 二年

おとうちゃんは
おかあちゃんに
「おい」
とよぶ
おかあちゃんは
おとうちゃんに
「ちょっと」
とよぶ
二人とも
名まえがついてあるのに

おかねもちのおきゃくさん

ます田 ようこ 三年

おかねもちの おきゃくさんがきやはった
おかあさんは
とっつきゅうでええふくにきかえて
「そうでございますねえ」
とすましてしゃべったはる
おかあちゃん
京都べん つかいよし
むりして
東京べんつこたら おかしいわ
おきゃくさんも
京都のひとやんか。

五じゅうまる

大谷 まつ子 一年

おかあちゃん
五じゅうまる
もろてきたよ
あしたも
もろて きたる
まいにち もろてきたる
しまいにうちじゅう
五じゅうまるだらけになるな
おかあちゃん
おかねどどっちがええか。

じ

松田 豊子 四年

お父さんは
じ だった
せんそうにいかれなかつた
でも
せんそうにいけなかつてよかつた
ばくだんで 家のとんだ人
おとうさんに 死に別れた人
しょういだんで やけ死んだ人
おとうさんは
「じ」でよかつた
「じ」でよかつた

うるせ

佐藤 啓一 五年

テレビは八時までといったのに
選挙や大臣が決まった時は
おもしろいのをかけてくれない
父ちゃんにちがうのかけろと
しつこくいうと
「うるせ」とおこる
ぼくは父ちゃんに
市長や大臣にもなれんくせに
と聞こえるように
いってやる

白いもの

つじたくろう

かべは白
ベッドのふとんも白
かんごふさんも白いふく
先生のガウンも白
ぼくの食べるおかゆも白
こなぐすりのかみも白
まどからみえるくもも白い

二千年後

多田 義治 五年

ぼくの まごの まごの まごの まごの
まごの まごの まごの まごの
まごの まごの まごの まごの
まごになったら
テレビ五ひゃくえん
ひこうき一まんえん
じどうしゃ千えん
そんなとき
全部こ買うとけ
おれが おれが
いきかえってくるから

空

奥田 恭一 四年

そらには しゅうてんが
あるのだろうか
ないだろか
ぼくはあると おもうな
そこには
あおいすなど
ちいさいしころが
いっぱい ならんでるだらうな

お父ちゃんのくせ

谷 千恵子 四年

おとうちゃんは よう
「はなくそ」とる
しんぶんみながら
ラジオききながら
そんなとき わたしは
じっと 父のかおを
のぞきこむ
きがつくと
てれくさそうに てをおろす
そして
「ここらは空気がわるいなあ」
て ごまかす

Stage 2 青年期

地上の祈り～宗教音楽の数々～

レーヴィ・マデトヤ

深き淵より

Leevi Madetoja / De profundis Op.56

マデトヤ（1887-1947）はシベリウスの元で作曲を学び、20世紀フィンランド音楽の礎を築いた作曲家の一人。交響曲やオペラの大作とともに、師と同じく多数の合唱作品を残した。De profundis «深き淵より»は聖書の詩編130章をテキストとして1925年に作曲された無伴奏男声合唱曲で、彼の男声曲の中で唯一のラテン語宗教作品である。全体は4つの樂章に分かれているが、アッタカで通して演奏される。苦難にあえぐ人々の救いを求める声から始まり、神への篤い信仰を通して罪の贖いへといたるうとする道程が描かれる。

I. 主よ、深い淵の底からあなたに叫びます。

わが主よ、私の声を聞いてください

II. 主よ、あなたが過ちに目を留めるなら

わが主よ、誰が耐えられましょう

III. 私の魂は主に望みをおく

IV. 主のもとに慈しみがあり
そのもとに豊かな贖いがある

マーティン・ニュストロム（編曲 佐藤拓）

鹿のように

Martin Nystrom / As the Deer

1984年にMartin Nystromによって作曲された有名なブレイズ・ソング。このジャンルの中でも特に有名な曲の一つで、世界各地で当地の言語に翻訳されて歌われている。詩は、聖書の詩篇42章1節によっている。

谷川の流れを慕う鹿のように 私の魂はあなたを慕い求める
あなたこそ我が望み あなたを讃え仰ぐ
あなたこそ我が強き盾 あなたこそ我が力の源
あなたこそ我が望み あなたを讃え仰ぐ

この曲では神への呼びかけに「Lord」や「God」ではなく親称の「You」を用いていて、それぞれの人間と神との一対一の直接的な交感をもとにした信仰を歌う。

Stage 3 壮年期

わきめもふらず。ジグザグに。

作曲 信長貴富

2021年、小田原男声合唱団（指揮）辻秀幸の委嘱・初演によって生まれた作品。及川均の詩集『焼酎詩集』に収められた詩をテキストとする4曲からなる組曲。

詩人の及川は1913年岩手県に生まれ、岩手師範学校を卒業して小学校教師を数年務めたのち、戦中は中国・北京で教員となった。戦後は上京し「日本未来派」の詩人として数々の詩を発表、1996年に82歳で亡くなるまで後進の育成や創作に励んだ。

焼酎詩集、の名の通りすべて酒と酔払いにまつわる詩ばかりだが、戦後間もない混沌とした世相の中で、物悲しく、ときにニヒリストイックに物事を眺めながら、決して悲観的にはならず諧謔とシニカルさによって「生」への強い渴望を表している。

信長氏の作曲は、2行1連でつづられる切れ切れの詩の中に明確な旋律を見出しており、ユニゾンを多用してメロディの力づよさ、美しさを強調している。

3. マカハンニヤハラミッダ

唐突な般若心経の念仏に続いて、けだるいブルース、能天的なマーチ、アンニュイなワルツが次々と現れる。酔っぱらいの思考ながら、しかしその底には世知辛い人生への嘆きが見え隠れしている。

4. 日常茶飯的

暗澹とした酩酊の夜は終わりが近づき、また新しい朝を迎えるとする「当たり前的人生」を讃えるかのような終曲。「一月は吹雪。五月はリラ。生きてることはたのしいから。夜のふかさを杯を手に。」のユニゾンは朗々と鳴り響くクライマックス。

ジョン・ラター

大地の美しさゆえに

John Rutter / For the beauty of the Earth

現代イギリスを代表する作曲家ラターによってF.S.Pierpoint(1835-1917)の宗教詩に付けられたアンセム（英國国教会の讃歌）。この地上のさまざまな美しいものを挙げながら、それらを与えてくれた創造主への讃美を歌い上げる。

この大地の美しさ故に
この天空の美しさ故に
私たちを生めた瞬間から
包んでくれる愛故に

（リフレイン）
父よ、あなたに捧げる
この喜びに満ちた賛美歌を

そのすべての瞬間
昼と夜
丘と谷、木と花
太陽、月、そして輝く星々の美しさ故に

耳と、眼の喜び故に
心と頭の喜び故に
聴こえるものと見えるものを繋げる、神秘的な調和の故に

人類の愛の喜ばしさ故に
兄弟、姉妹、両親、子ども
この世の友人達、天上の友人達
すべてのやさしい思いと、穏やかさ故に

私たちにこれほどにも惜し気なく
与えられたあなたの完璧な贈り物
人間と神の美
地上の花と、天国の蕾故に

Stage 4 そして今 「まだまだ死なんぞ」

「まだまだ死なんぞ」、そらそうよ。人生1世紀時代の到来、マジか!? 影響は雇用システムにも及ぶ。21世紀に入り、「高度経済成長の申し子」としてその中核を担う「団塊の世代」の大量引退が見え隠れするところへ出生数の減少が重なり、総労働力人口の減少が深刻な社会問題となる。少子高齢化が加速する中、65歳までの定年延長が具体化する。ちょうどその頃、歌うことが忘れられないまだ現役で働き盛りのワセグリOB有志により東京稻門グリークラブ(TTGC)が発足する。それから早23年になるが、この間新型コロナウィルスの脅威をも巧みに躊躇し、定期演奏会の隔年開催を維持してきた。こうした活動において中核を担うのも、世間では疾に引退している「団塊の世代」とその前後である。

彼らの学生時代=青春時代は東大安田講堂の封鎖解除に象徴される騒然激動のただ中で始まった。1970年には大阪万博の開催。日米安保条約の自動延長。よど号ハイジャック事件に三島由紀夫の割腹自決。経済成長と効率を優先する陰で拡大する公害の顕在化等々、騒動・異変は枚挙に暇がない。続く1980年代、90年代、……そして現在。

歌は世につれ、世は歌につれ。間もなく戦後80年が経過するが、この間、ポップス、フォーク、ロック、ジャズ、歌謡曲、演歌、J-Pop等々、巷にはさまざまな音楽が溢れ、人びとは手軽な音楽視聴メディアとカラオケの登場によってあらゆるジャンルの曲と近しくなる。それらは合唱用にも編曲され、歌う機会も多くなつた。

とにもかくにも「合唱好き」では人後に落ちない同志の集まりTTGC。「男の一生」がテーマの演奏会、その最終ステージは、「男」をめぐる作品を取り上げ、これからもさらなる音楽の高みをめざして歌い続ける、その意気込みを披露しようという次第。「まだまだ死なんぞ」お~ん。

曲目紹介

酒頌

作詩 W・R イエイツ／訳詩 林 望／作曲 上田真樹

「うまし酒は口より入りて、うまし恋は目より至ると、……わ
れら老いてやがて死すとも、その前に、乾杯！」。アイルランドの
詩人W・B イエイツの“A Drinking Song”の日本語訳（林望訳詩集『新海潮音～心に温めておいた三十四の英詩』所収）に作曲された、
グリーメンには欠かせない酒と、同様に心地よい酔いをもたらす
恋を讃える歌である。原詩訳詩にそのまま当たる言葉はないが、
酒と恋とに生きた借り物でない人生に納得する男の充実感は、最
後の「乾杯！」で極まる。

舟唄～兄弟船

編曲 田中 宏

遠くから近づいてくる船曳きの陰鬱な掛け声（ロシア民謡『ヴォルガの舟唄』）。その間隙を縫うように『舟唄』（阿久悠作詞、浜圭介作曲、八代亜紀歌唱、1975年）が。港町の居酒屋にマドロス一人。女将の耳に届いたろうか、寄せる恋慕の実らぬ未練。そこへ突然何事か！船頭の合いの手（山形民謡『最上川舟唄』）に煽られながら、オヤジ譲りの『兄弟船』（星野哲郎作詞、船村徹作曲、鳥羽一郎歌唱、1982年）で荒海に乗り出す男漁師のド演歌だ。

海 その愛

作詞 岩谷時子／作曲 弾 厚作／編曲 源田俊一郎

「君といつまでも」「旅人よ」と並ぶ加山雄三の代表曲である。茅ヶ崎育ちで海を愛し続けた、制作当時40歳男盛りの加山は、「海よ、俺の海よ」と、海への深い信愛を悠然と歌い上げる。この壮大なスケールの曲にTTGCが挑む。

*岩谷時子と弾厚作（加山雄三の作曲家名）コンビ152番目のラストソングは「海が男にしてくれた」。

吹雪の街を

作詩 伊藤 聖／作曲 多田武彦

男声合唱組曲『吹雪の街を』は全6曲からなるが、6編の詩は、淡い恋心から始まり、結局は悲しい結末を迎える詩人伊藤整自らの恋愛体験の進行に沿って構成されている。取り上げる終曲「吹雪の街を」は、恋の破綻に打ちひしがれた青年の声にならない嘆きであろうか。切ない。

Profile

指揮：佐藤 拓



岩手県出身。早稲田大学第一文学部卒業。在学中はグリークラブ学生指揮者を務める。卒業後イタリアに渡り Maria G.Munari 女史のもとで声楽を学ぶ。アンサンブル歌手、合唱指揮者として活動しながら、日本や世界の民謡・民俗歌唱の実践と研究にも取り組んでいる。近年はボイストレーナーとして、自身の考案した「十種发声」を用いた独自の发声指導を行っている。東京稻門グリークラブ、合唱団ガイスマ、合唱団 Baltu 等の指揮者。常民一座ピッキンダーズ座長、特殊发声合唱団コエダイr.合唱団 (Tenores de Tokyo) トレーナー。声楽を稔金正雄、大島博、森一夫、古楽を花井哲郎、特殊发声を徳久ウイリアムの各氏に師事。公式ウェブサイト <https://contakus.com/>

ピアノ：佐藤 美佳



武蔵野音楽大学卒業。家永音楽事務所の「新進ピアニストのタペ」を経て、サントリーホール・ブルーローズなどでソロリサイタルの開催を続けた。管・弦・打・声楽など共演する楽器は多岐にわたり、力強いサポートには定評がある。2006年には、作曲家・別宮貞雄氏の「別宮貞雄管楽作品コレクション」のレコーディングに参加し、アルト・サクソフォン、フルートと共に演し、2曲収録。スリーシエルズより発売中。早稲田大学グリークラブOB、慶應義塾ワグネル・ソサイエティー男声合唱団OB関係などの合唱伴奏も多数多くこなす。東京フィルの首席奏者、Vn 宮川正雪・Vc 渡邊辰紀とのトリオは作曲家・新実徳英氏より「トリオ・サファイア」と名付けられ、毎回好評を博す。

フレーベル少年合唱団



株式会社フレーベル館の文化・社会貢献事業として、1959年に誕生した児童合唱団です。日本では数少ない少年だけの合唱団として、創立以来数百名のOBが輩出、現在の団員数は約80名です。年1回の定期演奏会のほか、オーケストラとの共演、オペラへの出演、地域コンサートをはじめとする各種演奏会、地方公演、レコーディングなど、様々な分野で活動しています。

東京稻門グリークラブ 団員一覧

音楽監督 佐藤 拓

Top Tenor 清水 實 安斎 真治 坂井 直樹 佐藤 宗治 清水 稔夫
Second Tenor 白井 猛 大山 重雄 横信人 江澤 孝政 横田 均
Baritone 児玉 昌久 山本 雄二 星 賢太郎 林 幹夫 多奈部 純一 小岩 寿樹 近藤 芳明
Bass 辻田 行男 清水 卓爾 川島 基成 溝田 俊二 永野 宏行

パンフレットデザイン：吉田健嗣

東京稻門グリークラブ
演奏会の記録

東京稻門グリークラブ
演奏会の記録

裏表紙